

健康 中核にまちづくり

近畿の首長ら中央区でフォーラム

住民の健康とまちづくりを考える「健康長寿社会を創造するスマート・ウエルネスシティー(SWC)・フォーラム」(SWC地域活性化総合特別区域協議会など主催、高石市など共催)が26日、大阪市中央区の



講演に聴き入る各地の首長ら自治体関係者
—大阪市中央区のマッセOSAKAで

マッセOSAKAで開かれ、府内のほか、京都、兵庫など各地の自治体関係者らが参加した。

SWCは健康をまちづくりの中核に位置づける都市モデル。阪口伸六・高石市長は「超高齢社会の対策が自治体の最重要課題。健康をキーワードとして取り組んでいきたい」とあいさつした。

フォーラムでは久野譜也・筑波大学院教授が講演。日常生活の車依存脱却が、歩行による健康増進につながるとして「中心市街地をよみがえらせるのは、健康な人を増やすまちづくりだ」などと訴えた。

また阪口市長や、中貝宗治・兵庫県豊岡市長による自市の事例紹介などもあった。

【稲垣淳】

掲載日 毎日新聞 平成25年8月27日